

説教余滴

「平野さんの旅立ち」

2020年10月21日(水)、平野チエ姉妹の葬儀礼拝が、この礼拝堂で執り行われました。

19日(月)朝、お茶の支度をしているとき、電話が鳴りました。「ちょっと早いかな、まさか」と思いながら取り上げました。良く聞こえません。緊張が感じられます。ようやく聞き取れました。平野さんの長男、雄一郎さんからお母様の急逝を知らせるものでした。

18日、夕刻、ご主人様と食事中、こと切れた、とのこと。驚きでした。

準備をして、葬儀に臨みました。式辞の最後3分ほどのところで、私が中途降壇しました。

そこから先の部分は、林役員に代読をお願いしました。以下に再録します。

《窮屈な立派な人間になる道から外れて、いい加減な無軌道な人間になったでしょうか。

そうはなりませんでした。安易な道を選ぶのではなく、キリストの友と呼ばれることを喜ぶ道を選ばれました。

讃美歌122番3節「恵みににおい愛に香る 御足の跡を我はたどらん」。

ある時は、ご家族には厳しい言葉をかけられたかもしれませんが。言わないほうが無事平和と判っていても、主イエスの愛を知るおばあちゃんは、言わないではいられないはずです。愛は、甘い顔だけではありません。慈愛と峻厳を同時に示す、これがキリスト信仰です。

平野さんは、信仰の生涯を走り終え天の御国へ凱旋されました。敗北や挫折ではありません。

新しい永遠の生命の始まりです。いたずらに悲しむことなく、別れを惜しみましょう。そして、私たちのこれからの生き方を考える時としてください。これこそ平野チエさんが、望んでおられたことです。この平野さんを主イエスは喜んで、みもとにお迎えくださいます。≫

平野家の皆様、教会員の皆様、ご迷惑、ご心配をおかけしました。心からお詫び申し上げます。お許しください。医師の診断も仰ぎましたが、何も心配するものは見られない、とのことでした。